

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-80448
(P2009-80448A)

(43) 公開日 平成21年4月16日(2009.4.16)

(51) Int. Cl.

G02F 1/35 (2006.01)

F I

G02F 1/35

テーマコード (参考)

2K002

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2008-81487 (P2008-81487)
 (22) 出願日 平成20年3月26日 (2008.3.26)
 (31) 優先権主張番号 特願2007-232239 (P2007-232239)
 (32) 優先日 平成19年9月7日 (2007.9.7)
 (33) 優先権主張国 日本国 (JP)

特許法第30条第1項適用申請有り 2007年2月28日 社団法人 日本物理学会発行の「日本物理学会講演概要集 第62巻第1号 (2007年春季大会) 第4分冊」に発表

特許法第30条第1項適用申請有り 平成19年3月8日 インターネットアドレス「http://www.soc.nii.ac.jp/jps/」に発表

(71) 出願人 304028346
 国立大学法人 香川大学
 香川県高松市幸町1番1号
 (74) 代理人 100089222
 弁理士 山内 康伸
 (74) 代理人 100134979
 弁理士 中井 博
 (72) 発明者 鶴町 徳昭
 香川県高松市林町2217番地20 国立
 大学法人香川大学工学部内
 (72) 発明者 宮川 勇人
 香川県高松市林町2217番地20 国立
 大学法人香川大学工学部内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 テラヘルツ光源

(57) 【要約】

【課題】 高強度のテラヘルツ光を出力でき、かつ、構造をコンパクトにできるテラヘルツ光源を提供する。

【解決手段】 屈折率の異なる層を交互に配設することによって形成された1次元フォトニック結晶から形成されており、1次元フォトニック結晶は、その内部にテラヘルツ光を発生し得る部材によって形成された欠陥部2と、欠陥部を挟む一対のミラー部3、3とを備えており、一対のミラー部3、3は、欠陥部2が発生するテラヘルツ光を、欠陥部2内で共振させ得る構造に形成されている。欠陥部2が発生したテラヘルツ光を欠陥部2内で共振させることができるから、テラヘルツ光源1から外部に出力されるテラヘルツ光の強度を増幅することができる。

【選択図】 図1

